

日本山岳会所蔵資料紹介 No.12

[資産番号] 10500～10508
 [資料名] マナスル登山隊装備など
 [部門名] 登攀用具
 [寄贈者] 日本山岳会
 [受入日] 1956年、1985年



① マナスル頂上に置かれたピース缶



② カラビナとハンマーとロックハーケン



③ アイスハーケン



④ シュラフ

資料室には海外遠征で実際に使用した登攀用具、備品なども残されている。今号では、1956年のマナスル隊に関しての装備やエピソードある物品などを紹介する。

① マナスル頂上に置かれたピース缶。これは1956年5月9日、初登頂した隊員の一人(加藤喜一郎)が記念に頂上に埋めたもの。それを1985年12月、カモシカ同人隊の山田昇らが見つけて持ち帰り話題となった。落雷により穴の開いたピース缶の中にはJACの文字の入ったマッチ箱と、マナスルの石が入っている。マッチ箱には第3次マナスル隊全員(横有恒隊長ら12人)の名前が鉛筆で記されており、現在も確認できる。詳細は1986年1月1日付の朝日新聞に報じられており、記憶にある会員も多いことだろう。

② カラビナとハンマーとロックハーケン。ハンマーのシャフトは木製で長さ25.5cm、鉄製のヘッドは11.5cmほどで「好日山荘」の刻印がある。ロックハーケンには「秀山荘」や「好日山荘」の刻印がある。

③ アイスハーケン、「ALF・BHEND」の刻印がある。

④ シュラフ(二重、羽毛/ナイロン)、実際に使用したもの。

⑤ マナスル登頂記念に作られたピース箱。青い空にそびえ立つマナスルを目指す隊員の姿が描かれている。



⑤ 登頂記念に作られたピース箱

なお、日本山岳会ホームページ→日本山岳会の活動案内→委員会→資料映像委員会へアクセスすると、「会報ページそのもの」を「拡大およびカラー」で見ることができます。活用ください。また、公開資料に関する情報・ご意見・ご教示など、次までお寄せください。✉ jaeshiryu102@jac.or.jp
 (資料映像委員会)

◆編集後記◆

● ネパールで104の新しいピークがオープンになった。このニュースはかなり前から聞こえてきたが、昨年11月の選挙による新内閣発足後、なかなか進展しなかったと聞いている。ネパールの山好きにとつては、首を長くして待ち続けたニュースだった。

● 最近カトマンズへ行くと、地図屋へ行くのを習わしとしている。各山域の5万分の1地形図を買ってきては、眺めているのが楽しくしたが、今回のオープンピークについても、地図の中で探して、じっくりと山容を眺めてみたい。

● 次号は総会特集。増ページを予定しているが、それでも紙幅が足りないのが現状であるため、いくつかのニュースを8月号に送ることに了承ください。(柏澄子)

日本山岳会会報 山 829号

2014年(平成26年)6月20日発行
 発行所 公益社団法人日本山岳会
 〒102-0081
 東京都千代田区四番町5-4
 サンビューハイツ四番町
 TEL 東京(03)3261-4433
 FAX 東京(03)3261-4441
 発行者 日本山岳会会長 森 武昭
 編集人 柏 澄子
 E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp
 印刷 株式会社 双陽社